



神河町【兵庫県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成28年3月 ■ 人口：11,592人 ■ 面積：203km²
■ 担当課：神河町教育委員会（平成30年3月現在）



私たちの町、神河町では、文化財や地域で長く伝えられてきた“宝もの”を「歴史文化遺産」と呼び、次世代に受け継いでいくための様々な取組を進め、まちづくりに活かしています。そして歴史文化遺産を活かしたまちづくりをより一層効果的に進めていくために、「神河町歴史文化基本構想」「神河町歴史文化保存活用計画」を策定しました。

5 歴史文化を表す
つのキーワード

地力が育む、自然と生きる、生業で育む、
みちで繋ぐ、記憶で紡ぐ

課題

- ・ 歴史文化遺産の把握に係る課題
- ・ ひとづくりに係る課題
- ・ しくみに係る課題
- ・ 保存活用に係る課題

保存活用方針

- ・ 「わがまちの宝もの」を輝かす
基盤づくり
- ・ 「わがまちの宝もの」を守り、
育み、活かす

保存活用のための取り組み

但馬街道と生野鉱山寮馬車道に係るもの

かつて、播磨と但馬を結ぶ道は、多くの人や物が往来し、江戸時代には沿道に宿場町が形成され、近代には、生野鉱山寮馬車道（銀の馬車道）として引き継がれた。現在も兵庫県の主要な南北軸として日本遺産に認定され、町並みを活かした様々な取組が行われている。



清流と名水に係るもの

神河の清流や水路はアユやオオサンショウウオ、ホタルなど多様な動植物の生息地となっている。とくに越知川は清流の恵みを受け、近年では名水街道と名付けられ、観光協会が中心となり、観光施設や店舗、地域の方々が連携し四季を通じたイベントを開催している。



農業と特産品づくりに係るもの

河川から水を引き、水路や水車を設け谷筋に広がる農空間を形成し、農産物を産した。農業に関連した民俗行事も交流の場となっている。また、揚水のために設けられた水車は田園風景とともに地域づくりに活かされ、柚子やお茶は加工され特産品となっている。



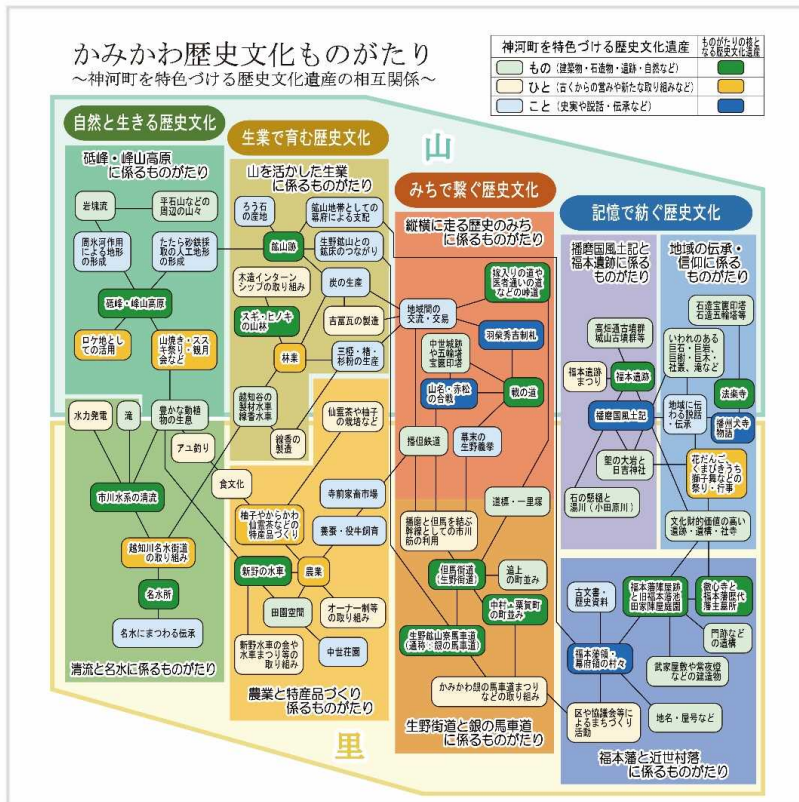
播磨国風土記と福本遺跡に係るもの

『播磨国風土記』の「神前郡 聖岡里」の伝承に関連した歴史文化遺産や、旧石器時代から奈良時代を中心とした福本遺跡と周辺古墳群等を一体として活用している。





関連文化財群



神河町の歴史文化遺産を指定文化財に代表される「神河町を特色づける歴史文化」と地域の宝ものに代表される「地域を特色づける歴史文化遺産」に分けた。これらの特質から「もの」「ひと」「こと」の3つの区分に分け、神河町の歴史文化の特徴を構成する歴史文化を4つのテーマにまとめ、相互が関係し合い作り出される数々のものがたりを地域づくりに活用する。

ストーリー

- 1 砥峰・峰山高原に係るものがたり
- 2 清流と名水に係るものがたり
- 3 山を活かした生業に係るものがたり
- 4 農業と特産品づくりに係るものがたり
- 5 縦横に走る歴史のみちにかかるものがたり
- 6 但馬街道と生野鉾山寮馬車道にかかるものがたり
- 7 播磨国風土記と福本遺跡に係るものがたり
- 8 福本藩と近世村落到に係るものがたり
- 9 地域の伝承・信仰に係るものがたり



策定後の成果 (見込まれる効果)

① 聖岡里から現代に繋がる暮らし

福本遺跡から始まる人々の営みや歴史や「播磨国風土記」を感じられる拠点ゾーンとして、現在に受け継がれる数々の歴史文化遺産を関連づけながら一体的に守り、育み、活かす。地域内外の多くの人々が、学び、交流できるフィールドミュージアムとしての賑わいを創出する。



② 播磨と但馬を結ぶ

但馬街道や生野鉾山寮馬車道の価値を掘り起こし、共有することにより、地域住民が誇りと愛着をもってまちづくりに活用していく。また、適切に守り、受け継ぐための措置を講じることにより、その魅力を広く発信し、学び、体験できる場を整え、多くの人々の来訪・再訪が見込まれる。



③ 歴史文化まちづくり

豊かな自然に育まれた歴史文化の魅力を高め、生き活きとした地域づくりへと展開し、多くの人々が地域への誇りや愛着を感じ「住みたい」「住み続けたい」と思う魅力的な居住環境づくりへと発展する。ひいては「訪れたい」と思われる環境づくりに繋がる。

